

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2779101589		
法人名	特定非営利活動法人訪問介護ほぐち		
事業所名	グループホームまつひろ		
所在地	大阪府大阪市淀川区三津屋南2-18-5		
自己評価作成日	平成30年5月20日	評価結果市町村受理日	平成30年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成30年6月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者スタッフ共に日々の暮らしの中で喜怒哀楽をわかちあえるホームであり、残存能力を少しでも長く活かせる様自立を尊重した支援を心がけています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人の運営者は地域住民で町会の班長を担い、地域に密着し、地域行事や防災訓練に積極的に参加し、利用者1人ひとりがその人らしく地域で暮らし続けられるように1ユニットのホームを運営している。事業所の特徴は朝・昼・晩の食事を職員が交代で調理し、利用者は出来る範囲で手伝い、音や匂いを感じながら、暮らしの中で一番大きな楽しみである美味しい手作り食事を利用者の希望を聞きながら提供している。一時期、看取りや職員の補充等で苦勞されたようであるが現状漸く落ち着いてきており、ホームは理念以外に職員の行動指針にもなる「介護に於ける基本」としての文章を作成し、分かり易い所に掲示し、管理者は職員の質向上にリーダーシップを十分に発揮している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングに理念を掲げ、定期的に意識している。	ホームの理念は地域型の意義を踏まえた事業所の理念を掲げ、玄関入口に掲示している。職員の行動指針にもなる「介護の基本」をフロアーの分かり易い場所に掲示し、職員は日々の原点として法人の理念と共に実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	代表者が町会に入り、班長役をしている。利用者と共に地域行事に参加している。	運営者は町会の班長を担い、地域の公園での夏祭りや秋の神輿祭り等に利用者と一緒に参加している。地域のカフェや年末の見回りに参加し、地域住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者講習会に参加し、支援の方法等グループワークに参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議で地域の情報を入手し、参加できる行事がないか検討。ホームの活動内容を報告している。	元民生委員、地域包括支援センター職員、町会長・家族等に参加を呼びかけ、年6回開催している。町会長は仕事、家族は生活支援の方が大半で最近、参加に至っていない。参加者と双方向に話し合い、運営に反映している。メンバーの拡充を検討している。。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター担当者との連携や合同講習会やグループワークの参加をしている。	区の生活支援課に定期的に出向、困難事例の情報や検討を頻繁に話し合い、助言を得ている。区主催の勉強会や地域オレンジネットの会に参加し、地域の課題や情報を得ている。地域包括支援センターとは緊密に交流している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待についての内部研修とともに身体拘束についても研修している。玄関鍵については一般家庭の防犯対策として施錠。利用者の意思で開錠できる状態である。	身体拘束のマニュアルを整備し、研修も定期的に行い、現状、身体拘束は実施していない。玄関は内鍵を使い自由に出入りできるが見守りで支援している。匂い・言葉使い等に気をつけ、拘束につながらないように支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	掲示物の発布や配布、内部研修にて周知し相談できる場をつくっている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人の意思を尊重できる環境を会議等で話し合っている。後見制度についての情報を収集している。自立支援について学ぶ機会があまり取れていないので今後の課題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前にホームの様子等見学いただき、不明な点をご確認いただける様ご案内し、説明の場を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場で意見の交換や取り入れ、ホームに苦情箱の設置やご家族や利用者からの聞き取りをし記録に残したり会議で話し合う。	身寄りが無い方や連絡が取りにくい方が半数いるが家族や成年後見人が訪問された時は現状の状況を報告し、意見や要望を聞くように努めている。利用者本人に寄り添い、要望等を聞くようにしている。苦情処理簿を整備し、記入し改善を図っているケースもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一人ひとりが意見を発しやすい様心がけ、会議やノート等でも意見交換の場を設けている。	毎週、ミーティングを開催し、利用者全員のカンファレンスを実施し、変化等を話し合い、職員の共有を図っている。一時職員の補充で苦労されたようだが漸く落ち着き、管理者のリーダーシップで職員との会話をしながら質の向上も図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各スタッフの得意とする分野で業務を遂行することをとりいれたり、負担が偏らないよう環境の配慮や個人の努力や実績を昇給等によって評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各スタッフの日常ケアの観察を行い、毎月の内部研修や外部への研修参加を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修会や連絡会への参加や、区内のホームとの職員意見交換会を開催している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報収集で得た内容と直接ケアで得た本人の様子をありのまま受け入れ、安住の場であると感じていただけるようゆとりと関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にとっても安心できる場となるよう誠実な対応を行い、ご利用者の今後は相談しあう様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者の様々な可能性を提示し、変化に応じた柔軟なサービス対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各ご利用者のそれぞれ「出来る事」を尊重し、時には職員を支えていただく立場にもなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方とコミュニケーションをとり、ご本人とご家族の時間をとりやすいように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣への散歩や行事参加、ご家族ご友人等にいつでも来訪し易い場作りや言葉かけをしている。	馴染みの人の訪問等は少ないが1人だけ昔の知人が月3回程訪問し、話し合ったり、外出に出掛け、楽しんでいるケースがある。ホームは歓迎し、途切れないように支援している。昔の馴染みの美容室に出向いている方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然とリビングに集われ各ご利用者同士で交友されている。利用者間でコミュニケーションの支援が必要な場合はフォローできるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域の方からの情報や年賀状のやり取り等がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の発したさりげない言葉や情報を記録に残し、スタッフ間で共有し少しずつでも把握できるよう努めている。	入所時にフェースシートに家族やケースワーカー等から過去の生活歴等を把握し、職員の共有を図っている。利用後も本人本位にどのように暮らしたいか等意見や意向を聞き、それに沿った支援を心掛けている。利用者から「家庭的な環境で暮らしたい」等が記載されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集した内容を記録に残し、スタッフ間で共有し把握に努め、現在との違いをスタッフも受け入れ一緒になじんでいけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する事を念頭において、その日その日のご本人にあった対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な会議で意見交換し、プラスへ働くケアについてやこれまでのケアについての振り返りを行っている。	毎週ミーティングを開催し、利用者1人ひとりのカンファレンスを実施し、変化等を把握している。定期的に個人ごとに状況を記録しているがモニタリングはしていない。計画は長期1年、短期6ヶ月で見直しは1年ごとに実施している。	刻々と変化する状況を毎週のミーティング時に把握しているが現状に合った介護計画作成につなげることが必要と思われる。見直しは1年は長く、定期的なモニタリングを実施し、チームで計画を作ることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各スタッフが気づいた日々の変化を個人記録に残し、会議での議題にあげ意見交換している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族が希望される要望で身近にいる私たちスタッフが力になれることは協力し安定した生活がおくれるようフォローしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の望む事を聞き取り、活力となる暮らしとは何かを話し合いながら支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣のかかりつけ医と連携し、指示をいただきながら健康支援に努めている。	5人の方は協力医療機関の内科医に月1回の通院または往診を受け、4人の方は別に2カ所の医療機関の内科・精神科医から月2回の往診を受けている。歯科医も歯科衛生士とペアで毎週訪問され、口腔ケアの支援や必要に応じて治療をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の心身の正しい情報を伝達するよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	かかりつけ医との連携を行い、入退院時の対応に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の希望を聞き取り、ホームでできることについて説明し話し合い、協力医院等に援助を仰ぎ支援に取り組んでいる。	緊急時事前確認同意書を整備し、終末期の医療の希望等、本人や家族の意向を聞き、同意を得ている。延命治療をしない事等を確認し既に5人の看取りを経験している。本人にとって良い最期を迎えられるように家族や行政と相談しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを事務所内に掲示し、研修での項目でも取り入れている。より一層の実践力等が必要であるので強化項目である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災週間を定めその期間午前と午後のシミュレーション時間を設け、全職員が訓練に参加できるようにしている。	町会と災害時に於ける防災協定を締結し、年2回、夜間を想定した訓練も含め、避難誘導訓練を実施している。食糧品や飲料水及び備品(毛布等)を整備している。ホームは河川等水害時に於ける危険地域でもあり避難場所である小学校への避難等を想定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人の人間関係を構築していき、尊厳をもった対応を心がけている。	先輩である利用者を尊重し、職員にはプライバシーを損ねる言葉使いに徹底して配慮するようにミーティング等で繰り返し、話し合っている。気づいた時は互いに注意し合うようにしている。接遇研修を定期的実施し、職員のマナーや言ってはいけない言葉等を学び、職員の共有を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表現しやすい雰囲気づくりに努め、表現の苦手な方には選択肢の提示をし自己決定を引き出す支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や日課の参加もありますが、張り紙や声かけ等でご本人の過ごしやすい状況を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に好みについて聞き取りしたり、好みの身だしなみをご自由に表現いただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	皆さんの集まれるリビングの傍にキッチンがあり、食事の好みや希望を会話しながら調理し、毎食ではないが一緒にできる方は協力いただいている。	職員は食材を生協から調達し、交代で朝・昼・晩、調理し、利用者は出来る範囲で手伝い、音や匂いを感じながら出来立ての食事を提供している。利用者の好みや希望も組み込み、一番の楽しみである美味しい食事はホームの優れた特徴である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜・肉類魚類のバランスを考え、薄味を心がけている。水分摂取量を記録し個別に不足分を補う支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの日課を声かけにて促している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人のタイミングをつかみご利用者のサインの見逃さない様スムーズなトイレ誘導を心がけている。定期的に手洗いを立ちやすい状況をつくっている。	半数近くの方が布パンツで過ごされている。利用者ごとの排泄パターンを把握し、日中はトイレに誘導し、自立排泄につなげている。オムツを使用していた方が布パンツに改善出来た事例もある。夜間の見回りは睡眠妨害にならないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取や軽い運動の促し、個々に牛乳等の食品の補給を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日頃からの入浴希望の聞き取り記録を行い、希望に添ったタイミングで入れる様努めている。	基本は週2回、希望する時間に個浴での入浴が出来るように支援している。好きな方は週4・5回、入浴している。同性介助を希望する方には対応している。ゆず湯・菖蒲湯・入浴剤も組み込み楽しい入浴につなげている。拒否する方には時間を置いたり、担当を変えたりして工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠への配慮をした見回り方法、個人個人に合わせた室温の調整や寝具の使用に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認、日々の記録でも心身状態の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみ活力が出る様その時々のご利用者の変化にあわせて、支援の方法を試行錯誤している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩等できる限りの外出を心がけているが、各ご利用者の希望差異、人員配置、心身状態の変化等でなかなか希望に添えていない為ご家族や地域の方々の協力を得る働きかけを積極的に取り入れたい。	できるだけ天気の良い日は職員と公園への散歩や買い物に出掛けている。2人の方の家族が定期的に訪問されるので外出を推奨している。最も優れている日々の手作り食事と同じように、良好な睡眠につながる日々の外出を皆で検討しては如何か。	短時間でも午前中に太陽の光を浴びることや暑い日・寒い日、関係なく生活の継続と捉え、気分転換や五感刺激を目的にした外出を日課的に努力・工夫し、職員・利用者共に習慣づける試みを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金所持されている方が少なく、スーパーのチラシ等で値段の感覚や話題を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書きやすい状況作りや働きかけをしている。ご家族ご友人にも連絡や来訪しやすいよう言葉かけやお便り等で働きかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の様な身近な雰囲気になるよう心がけている。	居間兼食堂は木目調でゆったりと広く、適切に机を配置し、壁には手作りのカレンダーや色紙が飾られている。2階建てで階段には昇降機を設置しているが元気に自立で昇り降りしている方がいる。淀川花火大会が綺麗に見学でき、楽しみとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階2階のリビングがあり、過ごされたい場所でご自由にすごしていただける様支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のなじみの家具日用品装飾品を可能な限り持ち込んでいただいている。	馴染みの家具や置物及びテレビ等を持ち込み、居心地良く過ごせる居室となっている。トイレが居室内に設置されており、大半の方が利用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な限りご自身で行っていただき、できない事をスタッフがさりげないフォローで補えるよう支援している。		